

知床羅臼写真コンテスト 2019

受賞者発表

知床羅臼写真コンテスト 2019 に多くのご応募頂きありがとうございました。
厳選なる審査の結果、各賞が決定いたしましたので、ここに発表致します。

<最優秀賞>

Hanako 「氷上のデュエット」

<生き物部門賞>

KENZO 「降臨」

<自然・風景部門賞>

佐藤智一 「日本最東端の滝」

<スナップ部門賞>

三船昭浩 「羅臼の若者達（頑張って！！）」

<特別賞・知床羅臼町観光協会会長賞>

早川徳幸 「港に咲く大輪の花」

知床羅臼町観光協会

応募総数 79 点

(生き物部門 48 点、自然・風景部門 24 点、スナップ部門 7 点)

審査員講評

【全体を通して】

今年の応募写真は、とてもバランスが良くオオワシやオジロワシなど様々な生き物の写真があり、選考することがとても難しく迷った。どの作品も高水準の写真ばかりだった。

【最優秀賞】 Hanako 「氷上のデュエット」

いかにも羅臼らしい写真。流氷が来て、流氷と共にオオワシ、オジロワシの両方がやって来るが、そのすべてが一枚の写真に詰まっている。ワシの力強さや氷の良い青さがとても出ている。動物はどうしてもアップで撮りたくなりがちだが、構図を考えてしっかり引きで撮っている。なかなか観光船に乗っていて縦位置で撮ろうとはならないが、しっかり考えられて撮っている。このままポスターにできそうな素晴らしい写真。

【生き物部門賞】 KENZO 「降臨」

オオワシの表情の鋭さ、ダイナミックさというのが一枚の写真にまとまっている。羽一枚一枚しっかりとピントが合っていて、タイトル通りのオオワシの逞しさ、荒々しさが表現されている。足の爪が氷に食い込んで氷が飛び散っているところまでしっかりと写っている。撮影したタイミングが良く、構図がすごく力強い。また、光が良い位置から当たっていて、顔の右半分と左半分で光の当たり方が違い、暗くなりすぎず素晴らしい。文句なしの一枚。

【自然・風景部門賞】 佐藤智一 「日本最東端の滝」

技術がとても高い。星の中心をどこに置くかで雰囲気は全く変わってくるが、この写真は凄く計算されて撮られている。自分の頭の中でどのくらい星を動かすかなど、イメージが考えられている。一時間露光したとあるが、木など、全然ぶれていない。天気が良く、月明かりもなく、無風な日でなければこのような写真はとれない。とても条件の揃った一枚。

【スナップ部門賞】 三船昭浩 「羅臼の若者達 (頑張って!!)」

スナップらしい写真。生活に密着した一瞬を切とったとても良い写真。写真に写っている人が全員、とても良い顔をしている。漁師の作業風景が伝わる知床羅臼らしい写真。

特別賞

【知床羅臼町観光協会長賞】 早川徳幸「港に咲く大輪の花」

羅臼の漁港がしっかり写っていて全体の風景が良くわかり、知床羅臼で花火を上げているのが良く分かる。雨の日の撮影ということだが、とてもきれいに撮れている。審査員の心にずっと残る写真。夜の写真だがシャープにきちっと撮れている。

審査員

審査委員長 石井 英二

副審査員長 関 勝則

審査員 大野 貴史